

<悪質繁殖業者からのレスキュー白書>

近年、ペット繁殖業者の崩壊が多く見られ、その殆どが劣悪な環境下での飼育でした。そのような悪質業者が全国的に横行しております。

これらは多くのレスキュー活動(大阪ヨーキー繁殖場崩壊、池田繁殖場崩壊、広島ドッグパーク崩壊、神戸疥癬症事件、大阪府ブルセラ症事件、大阪繁殖場崩壊レスキュー、福岡繁殖場崩壊等)を行ってきた動物愛護団体「アーク・エンジェルズ」のレスキュー経験から言えることですが、他の団体からのレスキュー報告でも同様に聞き及んでいます。

悪質な繁殖業者は、健全な飼育環境を作らず金儲け主義一辺倒でコスト削減、人件費の削減を元に営業を続けており、施設の不衛生な環境を作っているのです。

子犬の競り市においても大手業者と零細業者の間には不公平な格差社会が生まれており、利益追求のためコスト削減に不衛生な環境、人手不足、無理な繁殖が続けられて悪循環が生まれています。

- ・不要犬の処分に困った業者が山中に捨てたりしています。
- ・殆どのブリーダーは狂犬病予防注射の義務を怠っています。
- ・混合ワクチン接種を獣医師ではなく自己で行っている業者もいました。
- ・業者自身が不正にワクチンを手に入れ自身の手で接種したりしているのです。
- ・畜犬登録もしていない業者が殆どでした。

そこには愛護法違反、薬事法違反や獣医師法違反が起きています。

繁殖業者の施設で産まれる仔犬たちはどの子も可愛く、誰もが欲しがります。

しかし、3ヶ月間という犬の社会性も身に付けず親犬から離されて市に出、ペットショップへと陳列されています。

この為、子犬には親犬からの早期離反ストレス、分離不安が起きます。

親犬が不衛生な環境下に居ても片足がなかろうが片目がなかろうが、産まれてくる子犬たちはみんな同じように可愛いものです。

ペットを求める飼い主はこの現実を知りません。

悪質なブリーダーは血統を守らず血の濃い親子で掛け合わせたりしています。

酷いものは犬種の違う犬同士を掛け合わせて、世界で1頭しか居ない貴方の犬です。等と嘯いては繁殖して販売しているのです。

病気に罹っても即座には治療を受けさせない業者も居ます。

海外では、ブリーダーの意識は高くなり犬種の純潔種を守り、犬の血統を保存してい

ます。海外の団体、ブリーダーがすべて良いお手本とは言えない面もありますが・・・。
反面、わが国のブリーダーは資本主義のそのものです。(全ての業者がそうだとは言えませんが)

ブリーダーの裏社会では血統書の発行取引自体が不正に行われている実態が存在しています。頼めば1枚@3千円で手に入るそうです。

簡単に偽造、或いは虚偽の申請により一般消費者(飼い主)に渡されているのです。
この現実で起きている威厳の無い血統書を発行する業者等をJKCやペット小売業協会にご存知なのでしょうか？

知っているも改善などは不可能なのでしょうか。

そうではないと思います。

今の現実を見て

アニマルポリスの無いわが国では動物愛護団体による告発やレスキューにより救われている犬はラッキーですが、これらは氷山の一角でまだまだ多くの不幸な環境下で生きている犬たちが居るのです。

現在、わが国の一般家庭で飼養管理されている犬猫総数は2,200万頭を超えており、空前のペットブームとなっています。少子化傾向の中、子供の数より多いのです。

それに伴い、ペット産業も1兆円産業の市場規模になっていますが、市場としての整備などはされていません。

ブームと共にペット飼育頭数は拡大傾向にあります。ペットと暮らす社会には反面、様々な問題が起きています。

飼い主による飼育放棄、飼育マナー、モラルの低下、飼育知識の欠如、近隣とのトラブル、加えて悪質繁殖業者の横行等も同時に発生しています。

これらによる遺棄、持ち込みによる行政の殺処分実施。

やむを得ず、行政の動物管理センターでの殺処分が後を絶ちません。

本年から政府環境省も動物管理センターや保健所に持ち込まれた犬猫の殺処分を減少させることや、繁殖業者、販売業者への登録制、指導、監督。一般飼い主への啓蒙などを行っておりますが、依然大きな効果をあげるには至っておりません。

このままでは世界に遅れをとるばかりか経済大国の名に恥じる先進国に成りかねません。

動物飼育に関連する方たち。繁殖を行うブリーダー、犬の血統書を発行するJKC、動物を販売するペットショップ、動物を保護する愛護団体、治療や健康をチェックする獣医師会、動物飼育を監督する行政などが一団となって行う改革が必要になっていると思います。

<飼い主への啓蒙>

飼い主による飼育放棄、飼い主の飼育マナーの低下、飼育知識の欠如、近隣とのトラブルなど、多くの問題が発生しています。

犬猫を飼えば10年以上の寿命があります。

飼い主は家族同然の動物を終生飼養する責任を負います。

ペット販売業者はこれからペットを飼おうとしている人に十分に説明をする事が重要です。(家族として迎える。飼育上のマナー。飼育上の知識。等)

<悪質繁殖業者>

利益を追求することを優先するばかりに飼育施設の充実や衛生面においても手を抜く業者が多くいるため、不衛生な環境下での飼養管理となり病気発生の原因ともなっている。例として、ある施設の繁殖犬に回虫、原虫が発生しても駆虫すら行わず、生まれた子犬のみ駆虫を施し市場に出している業者もいる。よしんば、1頭ずつ駆虫しても個体管理がされてないので他犬にすぐに感染して限がないし費用もかかるから、行っていないと嘯くのである。

流行に流され乱繁殖に走りがちで劣悪パピーミルになっているブリーダーが多い。

コスト削減のための弊害が生じ、改善策なしの悪循環が起きている。

(改革案)

<ブリーダーの地位向上の改革>

(悪質ブリーダーの摘発を強化)

- ・劣悪環境を発見した場合、監督官庁に報告し動物管理センター、管轄警察署と共に立ち入り検査を行い指導、改善を行う。
- ・改善が見られない場合、JKCも血統書の発行を拒否し、ブリーダー業として認定しないようにする。
- ・全国のブリーダー業者の徹底管理を行い、監視体制を作る。
- ・監視監督は民間動物愛護団体が行い、動物管理センターやJKC、ペット小売業協会に報告する。
- ・摘発した悪質ブリーダーには告発を行う。

(優良ブリーダーには次の項目を遵守させる。)

- ・純血を守り無理な繁殖はしない。
- ・子犬を販売する際は幼齢不妊手術の奨励。
- ・母犬は年1回の出産、高齢出産7歳を限度とする。
- ・不要犬は処分せず動物愛護団体に引取りを要請する。

- ・狂犬病予防注射の励行
- ・畜犬登録の励行。
- ・混合ワクチン接種の励行。
- ・優良ブリーダーの推薦。
- ・管轄獣医師会との連携と治療費軽減の処置。
- ・適切な価格帯を決め安売りをしない。ネット販売はしない。
- ・社会性を身につける為、子犬販売は90日経過後の販売とする。(これには業者の言い分があり可愛さがある40日～50日というのが常識となっているので議論が残る)

<総括>

ブリーダー事業のこれからは質的淘汰の時代を迎え、生き残った業者は発展するが旧態依然とした劣悪環境を持つ業者は淘汰されるべきである。

そのためには、海外のアニマルポリスに成り代わり民間動物愛護団体がその役務を担い監視監督することが要求される。

動物愛護では後進国の韓国でさえ2009年には遺棄、虐待、殺処分を防止すべく法律を改正し、監視団体として民間動物愛護団体に任命する意向を固めました。

わが国もそうした悪質業者に対抗する監視制度を必要としますが、法律や条令が制定されるまでには相当の年月がかかり、その間には殺処分が実施される現実があります。長い歴史をもつJKC、ペット小売業協会が犬の血統を守るだけでなく全ての愛玩動物の愛護に向けて奮起されることを願っております。

私たち民間動物愛護団体でもシェルター施設を持ち、出来る限りの救済活動を継続しておりますが、全体的には微々たる活動にしか過ぎません。

動物愛護に携わる業界として、動物愛護団体とペット関連業界とは敵対関係ではなく相好に協力しあう必要が急務であり、動物虐待を監視する組織として悪質業者の淘汰を実施することが求められるのです。

<アニマルシェルター新設への協力>

非営利目的のシェルターを支援し、動物管理センターで殺される犬猫の保護・飼育・譲渡活動を支援することでブリーダーのイメージと動物愛護の向上を図る。

非営利事業をブリーダー事業の中に位置させることは、今までの劣悪業者のマイナスイメージを払拭させ、動物の命を売買するペット小売業界にも有利に働き、飼い意識の向上に繋がり、動物愛護に寄与することにも繋がる。

強いては将来の日本を背負っていく子供たちへの「生き物の命を大切にする」という情操教育にも貢献することになる。

これが本来の動物愛護であると確信しています。

是非とも動物関連に組織する皆様にご協力をお願いしたいと考えます。

2008年11月4日

動物愛護団体「エンジェルズ」代表 林 俊彦